

RCネット工法の販売強化へ

環境にやさしく、仮設足場が不要

高エネルギー吸収型落石防護網



工法特許番号：第3458134号

20t(約7.5m)の落石まで対応可能。落石エネルギー80000kJまで対応可能

Made in 新潟 新技術普及・活用制度の
フランチナ技術に認定(登録番号：18D2021)

緩衝金具などから構成され、ワイヤロープに配置された緩衝金具により落石エネルギーを吸収する。これにより、従来の落石対策工法では対応できなかった巨大な落石にも対処可能だ。

主な特徴

50kN以下に対処可能となつてい

今後は類似品による知的所有権の

話している。

シビル(新潟市中央区)

RCネット工法は、98年に金沢大学の吉田博名誉教授とともに開発。採用第1号として、99年に県村上市木事務所(現村上地域振興局)から防災工事を受注する。00年には国土交通省新技術情報提供システム(NETIS)に登録され、07年に工事実績が100件を超えたという。また、新潟県の「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」では、11年にフランチナ技術に登録認定されている。

は、端緩衝金具がワイヤロープに加わる張力を平均で65(kN)程度に制限するため、ワイヤロープが破断(破断荷重157kN)することなく、同時にアンカーの破断・引抜きも防止できる。また、クロス緩衝金具はすべり長1.5mの場合、1カ所につき約15(kN)の落石エネルギーを吸収し、単位面積当たりのワイヤロープ数量を増やすと、さらに大きな落石エネルギーを吸収する。4つの工法があり、ポケット式と覆式は落石重量が200kN以下、ポケットキャッチ式は80kN以下、キャッチ式が50kN以下に対処可能となつている。さらに仮設足場は不要な上、資材も軽微、立木の伐採、斜面整形が不要のため、環境にもやさしいとい

斜面防災の工法と資材の開発および製造販売を行う、落石対策におけるエキスパートの(株)シビル(新潟市中央区美咲町1丁目8番1号 窪田潤平代表取締役)は、高エネルギー吸収型落石防護網「RCネット工法」

は、端緩衝金具がワイヤロープに加わる張力を平均で65(kN)程度に制限するため、ワイヤロープが破断(破断荷重157kN)することなく、同時にアンカーの破断・引抜きも防止できる。また、クロス緩衝金具はすべり長1.5mの場合、1カ所につき約15(kN)の落石エネルギーを吸収し、単位面積当たりのワイヤロープ数量を増やすと、さらに大きな落石エネルギーを吸収する。4つの工法があり、ポケット式と覆式は落石重量が200kN以下、ポケットキャッチ式は80kN以下、キャッチ式が50kN以下に対処可能となつている。さらに仮設足場は不要な上、資材も軽微、立木の伐採、斜面整形が不要のため、環境にもやさしいとい

は、端緩衝金具がワイヤロープに加わる張力を平均で65(kN)程度に制限するため、ワイヤロープが破断(破断荷重157kN)することなく、同時にアンカーの破断・引抜きも防止できる。また、クロス緩衝金具はすべり長1.5mの場合、1カ所につき約15(kN)の落石エネルギーを吸収し、単位面積当たりのワイヤロープ数量を増やすと、さらに大きな落石エネルギーを吸収する。4つの工法があり、ポケット式と覆式は落石重量が200kN以下、ポケットキャッチ式は80kN以下、キャッチ式が50kN以下に対処可能となつている。さらに仮設足場は不要な上、資材も軽微、立木の伐採、斜面整形が不要のため、環境にもやさしいとい

は、端緩衝金具がワイヤロープに加わる張力を平均で65(kN)程度に制限するため、ワイヤロープが破断(破断荷重157kN)することなく、同時にアンカーの破断・引抜きも防止できる。また、クロス緩衝金具はすべり長1.5mの場合、1カ所につき約15(kN)の落石エネルギーを吸収し、単位面積当たりのワイヤロープ数量を増やすと、さらに大きな落石エネルギーを吸収する。4つの工法があり、ポケット式と覆式は落石重量が200kN以下、ポケットキャッチ式は80kN以下、キャッチ式が50kN以下に対処可能となつている。さらに仮設足場は不要な上、資材も軽微、立木の伐採、斜面整形が不要のため、環境にもやさしいとい

環境に適合した工法と確かな技術
落石災害を防ぎ、安心な生活を創造



新世代の落石対策工法。
類似の工法にご注意下さい!

株式会社 シビル

代表取締役 窪田 潤平

本社/〒950-0954 新潟市中央区美咲町1丁目8番1号
TEL(025)284-2428(代) FAX(025)284-2641
営業所/札幌・東北・関東・名古屋・近畿・広島・福岡

<http://www.rcnet.co.jp/>